

啓明商事株式会社 代表取締役会長

野瀬副会頭

京都経済の未来を語る

第3弾

KBS京都「京bizX」

竹内キャスター



京bizXコラボインタビューの第3弾となる今回は、ファッション産業・和装産業の振興や、京都織物卸商業組合（以下、織商）の理事長としても京都経済センターの整備に力を入れておられる野瀬副会頭にお話を伺いました。

いかに和装を楽しんでいただけるかが重要

〈竹内〉

昨年11月に副会頭に就任されて間もなく1年です。和装産業をはじめとする伝統産業全般が低迷しているといわれていますが、ファッション産業や和装産業の振興をご担当されている野瀬副会頭としては現状をどのように捉えていますか？

〈野瀬〉

和装産業は昭和50年代前半に需要のピークを迎えたといわれていますが、当時と今を比べて着物を着る人が減ったとは感じておらず、むしろ今の方が多いような気もしています。

和装の振興にとって最も大切なことは、モノを売るということではなく、「いかに和装を楽しんでいただけるか」と考えています。20数年前に織商が着物のレンタル事業を始めましたが、今では京都に200軒以上の着物レンタル店があり、京都観光における一大産業となっています。着物を着て京都を観光すること自体が大きな魅力として広く海外に発信されています。このように、工夫をすればまだまだ需要を掘り起こせるのではないかと考えています。

〈竹内〉

外国人観光客向けのレンタル着物は、化学繊維で柄も和装とはマッチしないようなものが多く着物本来の良さは伝わらない、という声もありますが、どのようにお考えですか？

〈野瀬〉

化繊で奇抜な柄の着物であっても、少なくともジーパン・Tシャツよりは日本らしさ・京都らしさを感じてもらえるのではないかと思います。また、それぞれの国の文化に基づいた色彩感覚があつて当たり前ですし、一概に悪いとは思っていません。今後どのように推移するかわかりませんが、和装の広がりという観点から見れば、良い方向に向かつていくのではと考えています。

〈竹内〉

レンタル着物によって和装の間口が広がる一方で、本来の着物の世界を知ってもらうための方策も必要だと思います。

〈野瀬〉

時代とともに着物に求められる役割は変わっていくものだと考えています。代表的

な着物を着るイベントである結婚式やお正月も、この数十年でカジュアル化してきました。重厚で本格的な着物を着る場面が少なくなってきたと感じています。

一方で、提案のしかたによって本来の着物の魅力を感じてもらうことは十分可能だと思います。例えば、夏祭りで男性が着る和装として、浴衣ももちろん良いと思いますが、年配の方には麻の着物に縞の帯を合わせ紗の羽織をはおつていただく、風格が出て非常にかっこよく決まります。このように、着る場面を具体的にイメージできるように提案することが必要ではないかと思っています。

東京オリンピック・パラリンピックや文化庁の京都移転に向けて、日本の良さを見直す動きがますます加速しており、

伝統は革新の連続

〈竹内〉

京bizでは、京都の方々に伝統産業の新しい一面を伝えたいという思いで番組を作ってきました。個性を発揮し



京都が培ってきた文化や伝統産業に大きな注目が集まる機会が増えると思いますが、それをどのように活かしていくかが重要です。

てチャレンジするところがあるが京都企業の良い点だと思いますが、野瀬副会頭にはどのように映っていますか？

時代の変化に対応し、継続していくことが大事



〈野瀬〉

五山の送り火に例えると、山に火をつけて文字を表すということが当時は非常に革新的な取り組みだったのではないかと思います。それが今では毎年当たり前のように行われ、「伝統行事」として根付いています。

伝統産業も同じで、先人が積み重ねてきた革新的なものづくりが、現在は伝統産業になっている。「伝統は革新の連続」ということです。京都の和装産業は世界的にも非常に高度な技術を持っており、もっと誇りを持つことが大事だと思います。

〈竹内〉

その誇りを具現化するのが、建設中の京都経済センターではないでしょうか。野瀬副会頭は織商理事長としても

中心的な役割を果たしておられますが、京都経済センターに対してどのような思いをお持ちですか？

〈野瀬〉

京都経済センターは京都産業会館の跡地に建設されますが、産業会館は京都の織維関係の業界全体が熱い思いと貴重な資産を賭して作り上げてきた建物です。先人の思いを受け継いで、京都経済センターをより良い施設として次の世代に残していかなければなりません。1階に「織維産業振興センター（仮称）」、2階に展示場や多目的ホールを設け、和装をはじめとする伝統産業を京都の中心地から日本全国、あるいは世界に向けて発信していける施設とするべく、関係各所と調整しながら整備計画を進めています。

〈竹内〉

野瀬副会頭ご自身についてもお話を伺いたのですが、ご自身の行動指針やポリシーをお聞かせください。

〈野瀬〉

継続していくということが非常に大事だと感じています。「継続は力なり」と言いますが、伝統産業に係わるものとして、先人たちが積み重ねてきたことを続けていくということが、力になっていくと思っています。

私自身は次の世代にバトンを渡すだけで精一杯です。しかし、私がバトンを持っている間にも社会は常に変化し、その変化に対応できるように舵取りをしてきました。同じ会社で同じビジネスをしてきたようにも見えますが、私が受け継いだ当時と現在では、取引先も扱う商品も変わってきています。常に時代の変化に対応し、次の世代につなげていけるよう事業を継続していくことが大事だと考えています。

〈竹内〉

最後に、副会頭として京都経済に尽くしていきたいことは何でしょうか？

〈野瀬〉

立石会頭を先頭に、京商として一丸となって課題に取り組んでいきたいと思っています。特に私の立場からは、和装をはじめとする伝統産業の振興を積極的にはかかっていきたいですね。伝統産業の担い手は職人です。職人がいきいきと活躍できるようにビジネス環境を作れるよう努力していきたいと思っています。

※このインタビューの模様は、9月8日の「京bizX」で放送されました。



【京bizX】

毎週金曜日21:00~22:25 KBS京都テレビにて放送中。